

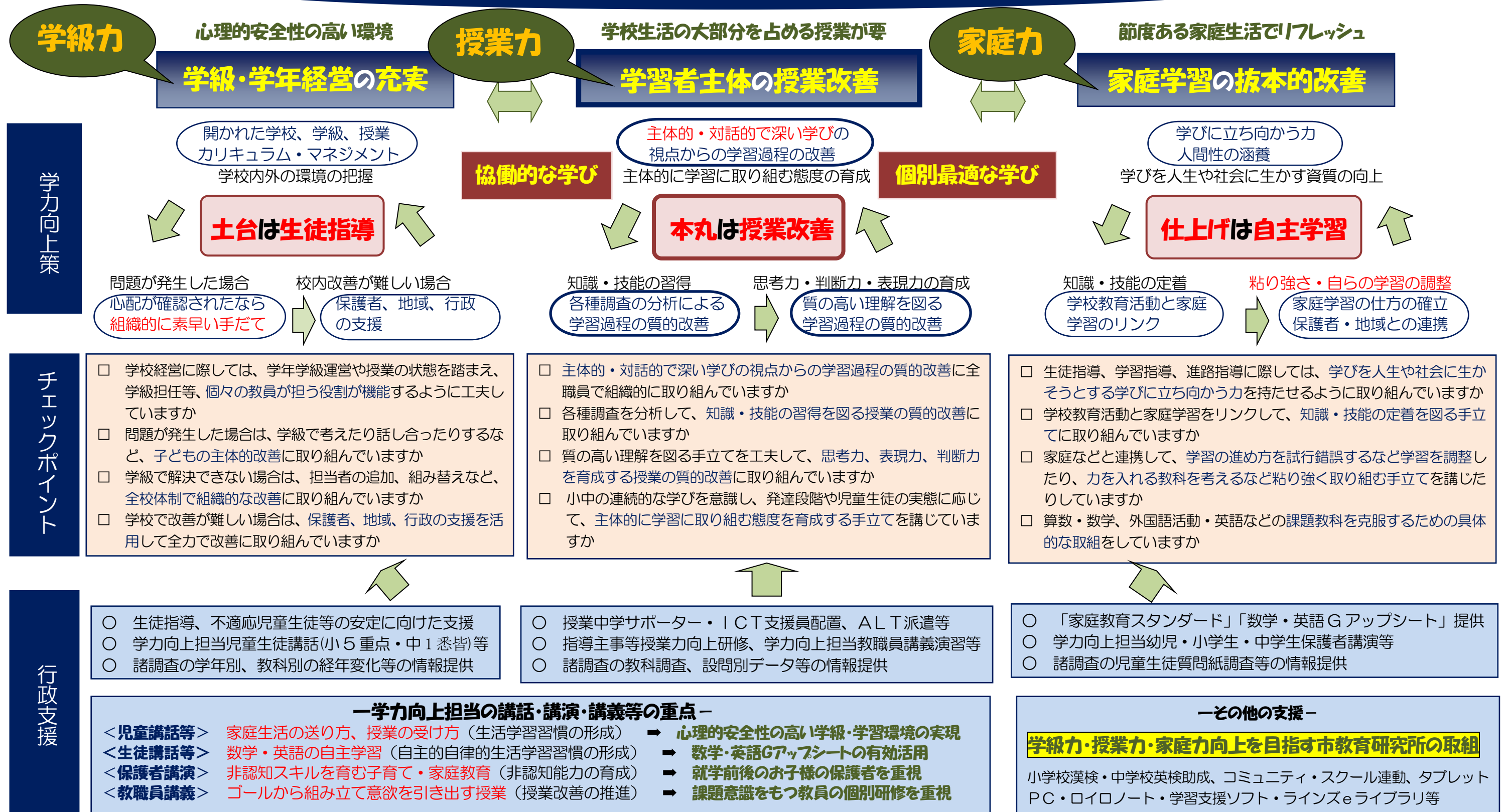
令和7年度花巻市学力向上アクションプラン

令和7年4月1日 花巻市教育委員会学校教育課

児童生徒の学力保障は学校の責務、取組の中核は日々の学級づくり、授業づくり、家庭との連携

花巻市の児童生徒が主体的・対話的で深い学びができるように、学校、教職員は個別最適な学びと協働的な学びを位置付けた授業改善に取り組むようお願いします。

【社会に開かれた教育課程 ⇄ 各学校におけるカリキュラム・マネジメント】



幼少期から育まれる非認知スキルの不足が学力低迷の要因の一つになっていると推測、家庭や地域の支援が必要

花巻市の子どもたちが、**学びを人生や社会に生かす資質・能力**として身に付けられるように、**家庭、地域、学校一体の取組**をお願いします。

項目	発達段階	小学校1・2年生	小学校3・4年生	小学校5・6年生	中学生	高校生
●安全性● 自他の命を守る力	【子育ての目標】 生命の尊さを教え、安全に生きる術を養うことにより、 自他の命を守る力 を育みましょう					
	☐ 信号を守る ☐ 横断歩道を渡る		☐ 左右確認と後方確認をする ☐ 自転車の乗り方の決まりを守る		☐ 相手の立場も考えて、交通ルールやマナーを守る ☐ 身の回りに潜む危険を予測して、自分の命は自分で守る	
	☐ 道路への急な飛び出し、道路のななめ横断は止め、交通安全に気を付ける					
●自律性● 善悪を判断し我慢する力	【子育ての目標】 集団の規律や規則を守り、集団の一員としての言動を育むことにより、 自ら善悪を判断できる力 を育みましょう					
	☐ 家の人に進んで元気にあいさつする ☐ 夜9時に寝る		☐ 近所の人に進んで元気にあいさつする ☐ 夜9時半に寝る		☐ 相手、時、場に応じてあいさつし、友達や他人の気持ちを考えて受け答えをする ☐ 自分で考えて睡眠時間を確保し、健康管理に気を配る	
	☐ 早寝、早起き、朝ごはんの生活リズムをつくる ☐ 夜9時以降はネット、ゲームをしない		☐ 相手を傷つける言葉や乱暴な言葉は使わない ☐ 家庭でネット、ゲームのルールを決める		☐ 清潔を心がけ身だしなみを整える ☐ ルールを守れなかったときの約束も決める	
●自主性● 粘り強く頑張る力	【子育ての目標】 成功を認め失敗を励まし、粘り強く取り組み達成感を味わう経験を積み重ねることにより、 自己有用感や自己有能感 を育みましょう					
	☐ 朝は自分で起き身支度する ☐ 簡単な家のお手伝いをする		☐ 寝る前に明日の準備をする ☐ 責任を持ち家のお手伝いをする		☐ 自分のものは自分で用意する ☐ 進んで家のお手伝いをする	
●社会性● コミュニケーションの力	【子育ての目標】 積極的に地域の活動に参加し、地域の仲間との関係で秩序を学ぶことにより、 仲間と共に生きる力 を育みましょう					
	☐ 使った物は後片付けする ☐ 友達を作って仲良く遊ぶ		☐ 公共のルールとマナーを守る ☐ 友達と譲り合って仲良く遊ぶ		☐ 子供会や地域の活動に参加する ☐ 仲間と助け合って行動する	
●勤勉性● 学びに立ち向かう力	【子育ての目標】 家庭学習の習慣を定着させ、発達段階に応じて自らの学習を調整する意識を高めることにより、 学びに立ち向かう力 を育みましょう					
	☐ 学年×10 分以上家庭学習する（1年10分、2年20分） ☐ 宿題は必ずする ☐ 国語と算数は必ずする		☐ 学年×10 分+5分以上家庭学習する（3年35分、4年45分） ☐ 自主学習にも取り組む ☐ 国語と算数は必ずする		☐ 学年×10 分+10 分以上家庭学習する（5年60分、6年70分） ☐ 苦手な教科にも力を入れる ☐ 国語と算数は必ずする	
					☐ 平日2時間以上勉強する ☐ 休日は平日より1時間以上多く勉強する ☐ 数学と英語は必ずする	☐ 平日3時間以上勉強する ☐ 休日は平日より1時間以上多く勉強する ☐ 力を入れる教科を考える

※ 花巻市教育委員会は、平成29年度に花巻市PTA連合会や花巻市教育振興協議会等の教育関連団体のご理解ご協力をいただき、家庭教育の土台を示す「花巻市家庭教育スタンダード」を作成しました。各中学校区では、平成30年度に「花巻市家庭教育スタンダード」の基本的な考え方やそれぞれの地区の実情を踏まえて「〇〇地区家庭教育スタンダード」「〇〇地区家庭生活・家庭学習の手引き」を作成し、子育て世帯に配布して学校、家庭、地域が一体となって子どもの健全育成に努めています。令和2年度以降も学習指導要領改定等に伴う語句や表現の一部を見直しつつ継続しますので、学校、家庭、地域が一体となって進める「**花巻市コミュニティ・スクール**」等の取組に活用願います。併せて、岩手、花巻の長年の課題である数学、英語の学力向上のため、中学生は家庭学習で「**花巻市数学・英語Gアツプシート**」を活用するよう願います。

子育て、教育の土台

乳幼児期からのアタッチメント(愛着)→非認知能力(我慢・頑張りがまん・がんばり・コミュニケーションなど)の育成は人間形成に大切！

学習で成果を上げている児童生徒は、各種児童生徒質問紙調査の基本的な生活習慣、人としての在り様、学習に対する姿勢等、大部分の質問項目で望ましい回答が多く、「自分と向き合う力」「自分を高める力」「人とかかわる力」、いわゆる非認知スキルが高い傾向があります。

そこで、学校、家庭、地域はこれまで以上に子どもの生活・学習環境を意識して乳幼児期から発達段階に応じて非認知能力を育む手立てを講じていただくようご理解ご協力をお願いします。

【気になるデータ】 岩手県学習定着度状況調査児童生徒質問紙調査「携帯電話やスマートフォンの利用時間」

スマホ等の 利用時間	小学校5年生							中学校2年生						
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
3時間以上	7%	6%	21%	19%	28%	24%	28%	11%	23%	23%	27%	28%	30%	36%
1時間未満	78%	77%	36%	40%	31%	36%	33%	54%	25%	26%	21%	18%	27%	17%

令和7年度全国学調・県学調の予測値と期待値(目標値)の算定

令和7年4月1日 花巻市教育委員会学校教育課

I 平均正答率を1年間の学力向上の取組の目標に設定するときの問題点とその解決の手立て

平均正答率を目標にして1年間の取組の効果を検証しようとする、過去の学級・教科指導環境や集団の潜在能力の差などによって平均正答率が左右され、1年間の取組の効果が捉えにくくなります。また、学力調査は相対評価のNRTや絶対評価のCRTなど標準化作業を経た「標準学力検査」と全国学調、県学調、市販テスト、教師自作テストなどの標準化作業を経ない「非標準学力検査」に大別され、前者が得点率を用いて年度をまたぐ評価を可能にするのに対して、後者は調査問題の難易度が異なるために平均正答率の比較が意味をなさないこともあります。さらに、中学校数学、英語などは全国レベルと県レベルの調査母体の格差が大きく、全国学調と県学調など異なる調査間の比較を難しくすることもあります。つまり、平均正答率を目標に1年間の取組の効果を検証するためには、過去の学級・教科指導環境や集団の潜在能力、調査問題の難易度、調査母体の格差などを踏まえて評価する必要があります。

そこで花巻市では、「平成31年度（令和元年度）花巻市学力向上アクションプラン」から児童生徒の意識調査結果を指標に掲げて1年間の取組の効果を検証することにしました。同時に、これまで積み上げてきた学力データと当該集団の直近の学力実績を基にして、過去の学級・教科指導環境や集団の潜在能力、調査問題の難易度、調査母体の格差など平均正答率に及ぼす影響を可能な限り補正し、1年間の学校・教職員の取組や児童生徒の頑張りを評価する手立てを模索し、1年間の学校・教職員の指導効果や児童生徒の成長を看取することができるようにしました。令和2年度はコロナ禍で全国学調と県学調が中止になり令和3年度全国学調の予測値を算定して期待値（目標値）を設定することができませんでしたが、令和4年度以降は部分的に令和2年度の全国学調と県学調の中止の影響を受けつつも期待値（目標値）の設定が可能になっています。

II 令和7年度小4～前8義務教育段階のCRT・県学調・全国学調の花巻市と県・全国の平均正答率との差一覧【単位％】

R7 年度 学年	小3 全国 CRT	国 語	算 数	小4 全国 CRT	国 語	算 数	小5 県 学調	国 語	社 会	算 数	理 科	小6 全国 学調	国 語 A	国 語 B	算 数 A	算 数 B	理 科	新入 生	国 語	数 学	中1 全国 CRT	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語 IBA	中2 県 学調	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	中3 全国 学調	国 語 A	国 語 B	数 学 A	数 学 B	理 科	英 語					
小3	R7			R8			R9					R10							R11			R11						R12							R12									
小4	R6	+3 改善	+5	R7			R8					R9							R10			R10																						
小5	R5	0 課題	+1	R6	+3 改善	+5	R7		-		-	R8							R9			R9																						
小6	R4	-2 最低危機	-2	R5	-2 過去最低	-4	R6	-2 過去最低予測覆し改善	-	-3	-	R7							R8			R8																						
中1	R3	+1 課題	+2	R4	+1 過去最低	0	R5	-3 過去最低大きく更新	-	-3	-	R6	-2 過去最低大きく更新	-8	-				R7			R7							R8															
中2	R2	+4 課題	+5	R3	+3 課題	0	R4	-1 過去最低危機的	-	-2	-	R5	-1 算数過去最低危機的	-4	-				R6	-3 過去最低	-3	R6	-1 理科過去最低更新危機的	-5	-8	-7	-1	R7	-	-		-												
中3	R1	+3 改善	+3	R2	+4 改善	+4	R3	0 前々学年より国算改善	-	+1	-	R4	0 前学年より改善も課題大	-2	-2				R5	0 やや改善	-1	R5	-1 社会過去最低全体的に課題	-5	-5	-5	-1	R6	-	-	+1	-	-1				R7					-		
高1	H30	+5 改善	+5	R1	+4 改善	+5	R2	コロナ 中止	-	コロナ 中止	-	R3	-2 過去最低危機的	-4	-				R4	-3 最低危機	-3	R4	-1 数学・理科過去最低危機的	-3	-8	-6	-1	R5	-1 数学過去最低大きく更新	-	-5	-	-1				R6	-2 国数昨年度同様大きな課題	-7	-	-			
高2	H29	+5 課題	+5	H30	+2 課題	+2	R1	-1 学力・意識とも過去低下	0	-1	0	R2	コロナ中止						R3	0 小学校・前学年より改善	-2	R3	+1 小学校・前学年より改善	-1	-3	+1	0	R4	-1 前学年より数学改善	-	-2	-	0				R5	-1 数英過去最低で大きな課題	-7	-	-11			
高3	H28	-	-	H29	+3 改善	+4	H30	0 前学年より国語改善数理低下	+1	+1	0	R1	+4 前学年並みに安定	0	-				R2	コロナ中止		R2	+2 前学年より再び低下	0	-3	-2	-2	R3	+3 前々学年より国語改善数英低下	-	-2	-	-2				R4	+2 前学年より国数改善	-3	-2	-			
前1	H27	-	-	H28	-	-	H29	-1 前学年より国語低下算数改善	+1	+2	+1	H30	+3 前学年並みに安定	+1	0	0	+1		R1	-1 前学年までより大きく改善	0	R1	+2 前学年までより大きく改善	+2	-2	-2	+2	R2	コロナ 中止	-	コロナ 中止	-	0				R3	+1 前々学年より数学改善	-4	-	-			
前2	H26	-	-	H27	-	-	H28	+1 前学年よりさらに算数低下	0	0	+1	H29	+2 前年度・前学年より改善	+1	+1	-1	-		H30	0 数学・英語大きな課題	-2	H30	+1 数学・英語大きな課題	0	-4	+1	-3	R1	0 前年度・前学年より大きく改善	-1	-1	0	-1				R2	コロナ中止	-	-				
前3	H25	-	-	H26	-	-	H27	+1 前学年までより大きく低下	0	+2	+1	H28	0 前学年までより大きく低下	+1	0	0	-		H29	0 数学・英語大きな課題	+1	H29	+1 数学・英語大きな課題	-1	-4	+3	-2	H30	0 前年度までより大きく低下	-2	-3	-1	-2				R1	+1 27中3に類似大きな課題	-6	-	-6			
前4	H24	-	-	H25	-	-	H26	+3 改善	+3	+4	+4	H27	+5 改善	+5	+3	-1	+5		H28	+1 改善	0	H28	-	-	-	-	-	H29	+1 改善	+1	-1	+1	0				H30	+1 改善	+3	-3	-2	0	-	
前5	H23	-	-	H24	-	-	H25	+3 改善	-	+6	+4	H26	+3 改善	+4	+2	+4	-		H27	+1 改善	0	H27	-	-	-	-	-	H28	+1 改善	+1	+2	0	-2				H29	+3 改善	+1	-3	-1	-	-	
前6	H22	-	-	H23	-	-	H24	+1 改善	-	+4	+3	H25	+2 改善	+3	+1	+1	-		H26	-	-	H26	-	-	-	-	-	H27	0 改善	-1	0	0	-3				H28	+1 改善	+1	-3	-3	-	-	
前7	H21	-	-	H22	-	-	H23	+1 改善	-	+1		H24	抽 出	抽 出	校 集	計			H25	-	-	H25	-	-	-	-	-	H26	0 改善	-1	-2	+1	-2				H27	-2 改善	-4	-6	-6	-4	-	
前8	H20	-	-	H21	-	-	H22	0 改善	-	+3	-	H23	震 災	震 災	未 実	施			H24	-	-	H24	-	-	-	-	-	H25	+1 改善	+2	0	+1	-2				H26	0 改善	0	-4	-4	-	-	
前9	H19	-	-	H20	-	-	H21	+1 改善	-	+2	-	H22	抽 出	抽 出	校 集	計			H23	-	-	H23	-	-	-	-	-	H24	+2 改善	+1	+2	+2	+2	0				H25	+2 改善	+1	-3	-4	-	-

【本資料のねらい】ここ10年余り、花巻市の全国学調や県学調の正答率は下がり続けています。教職員や児童生徒が1年間頑張っても、正答率が下がり続ける流れの中、教職員や児童生徒は成果を実感できずモチベーションは低下する一方です。そこで、本資料を活用して1年間の成長の度合いを評価し、教職員や児童生徒のやりがいや意欲を前向きに評価してみたいかがでしょうか。

Ⅲ 令和7年度全国学調の予測値と期待値（目標値）の算定

1 7年度小6全国学調					国語	社会	算数	理科	2 7年度中3全国学調					国語	社会	数学	理科	英語
ア	前6～中1・10個学年の小5県学調県差の平均実績値				+0.4	+1.0	+1.5	+2.5	ア	前9～高1・10個学年の中2県学調県差の平均実績値（英語混）	+0.6	0	-1.1	+2.0	-1.0			
イ	前6～中1・10個学年の小6全国学調全国差の平均実績値	+1.6	-	-0.9	+3.0				イ	前9～高1・10個学年の中3全国学調全国差の平均実績値	+0.4	-	-4.4	-2.0	-8.5			
ウ	全国学調と県学調の平均実績値の差（補正值）	イーア	+1.2	-	-2.4	+0.5			ウ	全国学調と県学調の平均実績値の差（補正值）	イーア	-0.2	-	-3.3	-4.0	-7.5		
エ	小6の小5県学調県差の実績値		-2.0	-	-3.0	-			エ	中3の中2県学調県差の実績値（英語IBA、R6～県作成）		-	+1.0	-	-1.0			
オ	小6全国学調全国差の予測値	エ+ウ	-0.8	-	-5.4	-			オ	中3全国学調全国差の予測値	エ+ウ	-	-	-2.3	-	-8.5		
カ	学力向上取組による加算		+1.0	-	+1.0	-			カ	学力向上取組による加算		-	-	+1.5	-	+1.5		
キ	小6全国学調全国差の期待値（目標値）	オ+カ	+0.2	-	-4.4	-			キ	中3全国学調全国差の期待値（目標値）	オ+カ	-	-	-0.8	-	-7.0		
3	全国学調の予測値と実績値から算定した小6・中3段階の1年間の成長								※ 予測値と実績値の差を1年間の成長とみなします。									

令和 7年度 の学年	小学校6年						令和 7年度 の学年	中学校3年								
	国語			算数				国語			数学			英語		
	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長		予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長
小6	-0.8			-5.4			中3	-	-	-	-2.3			-8.5		
中1	-2.6	-1.7	+0.9	-4.8	-8.4	-3.6	高1	-1.1	-2.1	-1.0	-8.4	-6.5	+1.9	-8.1	-	-
中2	+0.4	-1.2	-1.6	-4.1	-3.5	+0.6	高2	-1.2	-0.8	+0.4	-5.3	-7.0	-1.7	-4.4	-10.6	-6.6
中3	+1.2	+0.4	-0.8	-1.4	-2.2	-0.8	高3	+2.9	+2.0	-0.9	-5.5	-3.4	+2.1	-4.5	未実施	-
高1	算定不能	-1.7	-	算定不能	-4.2	-	前1	算定不能	+1.4	-	算定不能	-4.2	-	-5.5	未実施	-
高2	+0.5	データ無	-	-2.9	データ無	-	前2	+0.1	データ無	-	-3.7	データ無	-	-5.4	未実施	-
高3	+1.6	+4.2	+2.6	-1.5	+0.4	+1.9	前3	-0.6	+1.2	+1.8	-6.3	-5.6	+0.7	-6.3	-6.0	+0.3
前1	+1.4	+2.3	+0.9	+2.8	+0.5	-2.3	前4	+0.6	+1.9	+1.3	-5.3	-2.5	+2.8	-	未実施	-
前2	+2.1	+1.9	-0.2	-2.7	+0.3	+3.0	前5	+1.4	+1.7	+0.3	-2.0	-1.9	+0.1	-	未実施	-
前3	+0.9	+0.8	-0.1	-0.8	+0.1	+0.9	前6	-0.2	+0.6	+0.8	-3.9	-3.0	+0.9	-	未実施	-
前4	+4.3	+5.1	+0.8	+1.4	+0.9	-0.5	前7	-0.5	-2.9	-2.4	-5.0	-6.0	-1.0	-	未実施	-
前5	+4.3	+3.1	-1.2	+3.0	+2.9	-0.1	前8	+0.1	+0.1	0	-3.5	-3.9	-0.4	-	未実施	-
前6	+2.6	+2.5	-0.1	+1.5	+0.7	-0.8	前8	+1.3	+1.7	+0.4	-1.1	-3.7	-2.6	-	未実施	-

【本資料の活用方法】

令和6年度県学調では、小5国語・算数、中2数学・英語すべてでプラス成長、特に小5国語・算数、中2数学は1年間の成長としては過去最大幅の伸びでした。

「Ⅲ・Ⅳ 1・2 エ」の囲み数字

は花巻市のデータですが、ここに各学校のデータを入れ替え算定していただければ、各学校の予測値、期待値（目標値）を求めることができます。

Ⅳ 令和7年度県学調の予測値と期待値（目標値）の算定

1 7年度小5県学調					国語	社会	算数	理科	2 7年度中2県学調期					国語	社会	数学	理科	英語
ア	高3～小6・6個学年の小4CRT全国差の平均実績値				+1.8	-	+1.0	-	ア	前3～中3・5個学年の中1CRT全国差の平均実績値（英語CanDo）	+0.6	-0.5	-4.5	+2.0	-1.5			
イ	高3～小6・6個学年の小5県学調県差の平均実績値				-1.2	-	-1.2	-	イ	前3～中3・5個学年の中2県学調県差の実績値（英語IBA）	+0.2	-1.5	-2.0	-0.5	-1.2			
ウ	県学調とCRTの平均実績値の差（補正值）	イーア			-3.0	-	-2.2	-	ウ	県学調とCRTの平均実績値の差（補正值）	イーア	-0.6	-1.0	+2.5	-2.5	+0.3		
エ	小5の小4CRT全国差の実績値				+3.1	-	+4.6	-	エ	中2の中1CRT全国差の実績値（英語CanDo、R6～IBA）		-1.3	-4.7	-7.9	-7.1	-0.6		
オ	小5県学調県差の予測値	エ+ウ			+0.1	-	+2.4	-	オ	中2県学調県差の予測値（英語IBA）	エ+ウ	-1.9	-5.7	-5.4	-9.6	-0.3		
カ	学力向上取組による加算（低過ぎ？高過ぎ？）				+1.0	-	+1.0	-	カ	学力向上取組による加算（低過ぎ？高過ぎ？）		+1.0	+1.0	+1.5	+1.0	+1.5		
キ	小5県学調県差の期待値	オ+カ			+1.1	-	+3.4	-	キ	中2県学調県差の期待値（英語IBA）	オ+カ	-0.2	-4.2	-1.9	-5.2	+1.2		
3	県学調の予測値と実績値から算定した小5・中2段階の1年間の成長								※ 予測値と実績値の差を1年間の成長とみなします。									

令和 7年度 の学年	小学校5年					
	国語			算数		
	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長
小5	+0.1			+2.4		
小6	-5.5	-2.1	+3.4	-7.2	-2.5	+4.7
中1	-3.2	-3.4	-0.2	-3.5	-2.8	+0.7
中2	+0.3	-0.8	-1.1	-3.0	-1.8	+1.2
中3	+1.0	-0.5	-2.5	+1.5	+0.5	-1.0
高1	+1.1	データ無	-	+2.3	データ無	-
高2	-1.1	+1.1	+2.2	-0.9	-0.9	0
高3	-0.2	-0.2	0	+1.0	+1.0	0

令和 7年度 の学年	中学校2年								
	国語			社会			数学		
	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長
中2	-1.9	-	-	-5.7	-	-	-5.4		
中3	-1.2	-	-	-5.2	-	-	-3.4	+0.7	+4.1
高1	-1.3	-1.0	+0.3	-3.6	-	-	-6.2	-4.3	+1.9
高2	+1.0	-0.6	-1.6	-1.7	-	-	-1.0	-2.1	-1.1
高3	+1.4	+3.0	+1.6	-0.6	未実施	-	-1.6	-2.0	-0.4
前1	+2.0	データ無	-	+1.5	データ無	-	-0.6	データ無	-
前2	+0.5	+0.4	-0.1	+0.4	-1.0	-1.4	-2.4	-1.2	+1.2
前3	+0.2	+0.2	0	-1.4	-1.4	0	-2.8	-2.8	0

注意 英語等に係る補足説明

令和5年度までの中2県学調英語は英検IBA（県比）、中1CRT英語はCan Do（県比）を使って実施。令和6年度から中2県学調は国語の教科調査がなくなり、英語は英検IBAから県作成問題に変更、中1CRT英語はCan Doから英検IBAに変更。英検IBAは「書くこと」等がないことに留意。

令和7年度花巻市学力向上アクションプランの指標項目と目標値

令和7年4月1日 花巻市教育委員会学校教育課

※ 「＜成果指標2＞花巻市学力向上策の要点」に係る令和7年度目標値設定資料（平成30年度策定、令和元年度部分改定）です。令和元年度から3年度までの3力年で、岩手県実績値の最高値を花巻市令和4年度以降の目標値に設定しています。ただし、岩手県令和6年度実績値が花巻市令和6年度目標値を上回った場合、花巻市令和7年度目標値は岩手県令和6年度実績値に更新しています。【単位％】

学力向上策	指標項目（県学調 児童生徒質問紙 肯定回答）		学年	対象	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7目標	学年	対象	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7目標	備考
学級・学年経営の充実 学実	1	学校に行くのは楽しいと思いますか	小5	市県	90 88	83 85	87 87	88 87	81 85	84 85	87 86	87	中2	市県	88 88	86 86	87 86	81 84	85 85	84 86	90 86	86	
	2	自分にはよいところがあると思いますか	小5	市県	78 78	69 76	73 74	76 73	68 73	71 72	77 76	78	中2	市県	71 74	70 71	72 72	71 71	74 72	76 76	82 80	71	花巻市3期計画指標
	15	先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	小5	市県	78 80	75 79	78 80	80 80	80 81	81 81	84 83	81	中2	市県	82 82	79 82	83 83	80 82	83 84	86 86	90 87	更新 87	
	19	R1～R4学級は、お互いに助け合ったりお互いのよさを認め合ったりできている学級だと思いますか R5～新規授業や学級活動の話し合いで、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小5	市県		77 83	82 86	89 89	83 87	新規 73 73	76 74	更新 74	中2	市県		85 84	88 87	86 88	89 88	新規 73 76	80 76	76	
	22	R1～学級には、授業中の先生からの質問や、教科書の問題の答えなどについて、間違っても認めあえる雰囲気がありますか	小5	市県		81 83	84 86	87 86	84 85	86 85	84 85	86	中2	市県		86 86	88 88	87 88	88 88	88 88	87 88	88	
学習者主体の授業改善 学改	26	R1～授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか	小5	市県		82 83	81 82	82 82	84 82	81 80	82 81	83	中2	市県		84 87	86 87	83 85	86 87	85 86	86 85	87	
	20	R1～授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか	小5	市県		79 82	80 82	86 83	84 82	76 78	78 78	83	中2	市県		73 78	84 83	83 82	82 82	80 80	83 80	83	
	21	R1～授業の中の振り返る活動で、その時間の学習内容で何が大切だったか分かったと感じていますか	小5	市県		90 91	90 90	92 90	88 88	84 87	87 87	91	中2	市県		83 86	87 88	88 88	87 87	86 86	88 87	88	
	23	R1～先生は、あなたが授業やテストでわからなかったところや、理解していないところについて、分かるまで教えてください	小5	市県		86 91	91 92	93 93	92 92	90 90	91 89	93	中2	市県		84 86	91 90	88 91	91 91	89 90	89 89	91	
家庭学習の抜本的改善 家改	7	学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間、勉強しますか（小5・6年→1時間以上、中→2時間以上、勉強している）	小5	市県	74 71	71 69	73 73	76 69	69 67	57 63	62 62	73	中2	市県	20 22	18 21	20 25	16 20	19 20	17 18	19 17	25	
	8	家で、自分で計画を立てて勉強していますか	小5	市県	67 66	67 68	70 70	72 69	69 69	63 66	66 65	70	中2	市県	45 47	49 51	52 54	53 52	52 52	50 50	58 49	54	
	9	R1～学校の宿題などに加え、弱点を克服する学習に取り組んだり、発展的な問題に取り組んだりしていますか	小5	市県		61 65	61 67	68 67	64 68	64 65	64 65	68	中2	市県		51 53	58 59	57 58	61 60	59 58	63 59	60	



【重点】 児童生徒質問紙調査については、R6小5・中2ともに肯定的回答で県を上回る項目の割合が大幅に増え、「令和6年度花巻市学力向上アクションプラン」に掲げる「学級・学年経営の充実」「学習者主体の授業改善」「家庭学習の抜本的改善」に係る指標項目の肯定的回答でも改善が顕著でした。しかし、「学級・学年経営の充実」に関わっては、「学級には、授業中の先生からの質問や、教科書の問題の答えなどについて、間違っても認めあえる雰囲気がありますか」の肯定的回答が唯一県を下回っていました。児童生徒の学習に大きく影響すると考えられる心理的安全性の高い教室の雰囲気大切にしたいと考えます。一方、「学習者主体の授業改善」に関わっては、県を下回る項目がなく、取組が充実する学校が増えて徐々に望ましい方向に推移していると考えます。取組を続け広げることが今後力を入れることです。「家庭学習の抜本的改善」に関わっては、携帯電話やスマートフォンの長時間利用で県との差は見られないものの経年データでは年々増え続ける現状にあります。児童生徒の睡眠時間や学習時間を適切に確保するためにメディアに触れる時間をコントロールして節度、規律ある家庭生活習慣を維持、確立することが大切です。学習で成果を上げている児童生徒は、基本的な生活習慣、人としての在り様、学習に対する姿勢等の大部分の質問項目で望ましい回答が多く、「自分と向き合う力」「自分を高める力」「人とかかわる力」、いわゆる非認知スキルが高い傾向があります。令和6年度の学力、意識の望ましい変容を偶然とすることなく、引き続き「学級・学年経営の充実」「学習者主体の授業改善」「家庭学習の抜本的改善」の取組を続け広げようご理解ご協力をお願いします。

学力担当業務において、「令和7年度学力向上アクションプラン」は「PDCAサイクル」の「P(plan・計画)」、児童生徒対象講話・個別指導、保護者対象講演・個別相談、教職員対象講義・個別研修やGアップシート作成等は「D(do・行動)」、全国学力・学習状況調査、岩手県学習定着度状況調査、標準学力検査C R Tの結果分析と情報提供は「C(check・評価)」、それらを踏まえて次に講じる手立てが「A(action・実行)」と位置付けることができます。「PDCAサイクル」は、主に大きな範囲を対象とする長期工程に適するといわれます。

これとは別に、小職の「D(do・実行)」「A(action・行動)」の業務に際しては、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、最近経営学で注目される「OODA(ウーダ)ループ」のフレームワークを駆使します。「OODAループ」とは「O(observe・観察)」「O(orient・状況判断)」「D(decide・意思決定)」「A(act・実行)」のことで、決った工程がなく外的要因が絡む難しい状況で、個人やチーム等小規模な範囲を対象とするスピーティーで柔軟な臨機応変の対応が求められる場に適するといわれます。しかも、「OODAループ」はサイクルではありませんから、戻りや繰り返しを許容します。

例えば、講話・指導、講演・相談、講義・研修に際しては、学校訪問を行って担当者と協議したり現状を把握したりする作業が「O(観察)」、そのニーズや実態を踏まえて方向性を見出す「O(状況判断)」、内容や手立てを絞り込み合意する「D(decide・意思決定)」を経て、講話・指導、講演・相談、講義・研修を「A(実行)」します。校長先生方の中には、細目に所属教職員の授業を参観したり師範授業を提供したりして、担当教職員と一対一(最近経営学で「1 on 1」との表記あり)でフラットな話し合いをしながら、担当教職員の長所を強化したり課題解決をサポートしたりして人材育成に力を入れています。これらはまさに、リーダーが「OODA(ウーダ)ループ」のフレームワークで人材育成に努めている取組です。

以下は、学力向上に係る花巻市の課題解決に向けて、現在力を入れている、充実していきたい取組の大枠です。**学力向上をはじめとする学校現場の課題解決に際しては、学校という大きな組織として「PDCAサイクル」を回していると思いますが、併せて、日常的に教職員一人一人が細目に学級経営、授業改善、家庭連携の業務で「OODA(ウーダ)ループ」を意識し、学級力、授業力、家庭力を向上できるように取り組んでいただきたい**と願います。

1 花巻市の学力低下の正体

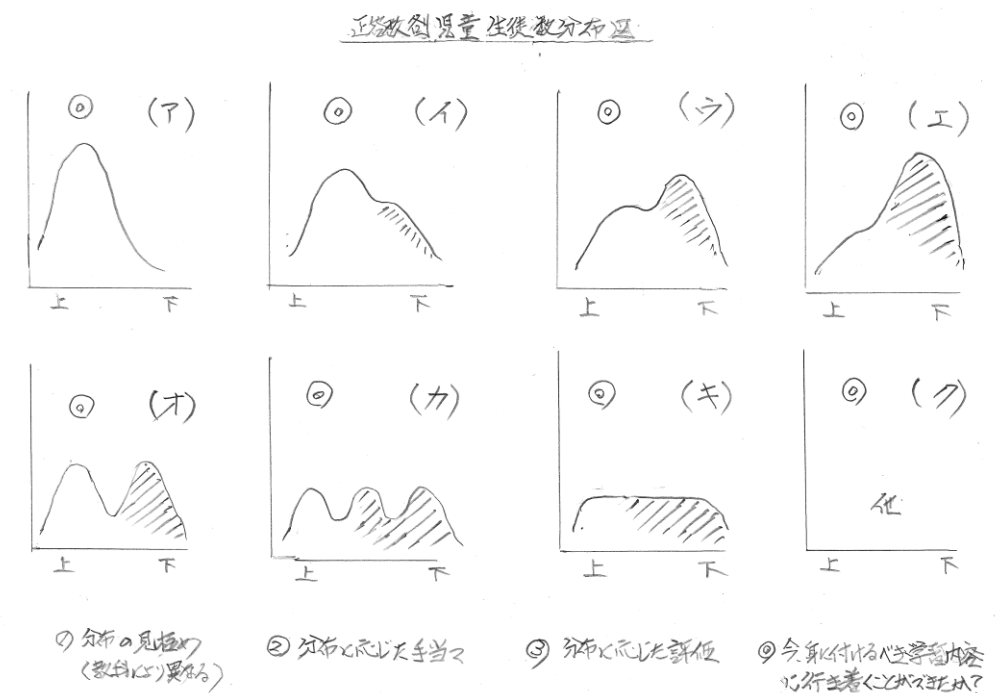
ここ10年余り、花巻市の全国、県と比較した児童生徒の学力大きく低下し続けています。次ページは、令和元年度から令和6年度までの5年間の小学校6年生と中学校3年生の全国学力・学習状況調査の「教科毎の正答数別児童生徒の分布」(学力上位層から下位層までの児童生徒数の散らばり具合)です。**校種、教科、年度により分布は異なりますが、年々学力上位層が減り下位層が増えています。これが花巻市の学力低下の正体**です。

○ 令和元年度の正答数別児童生徒の分布から

例えば、令和元年度の花巻市の小学校国語・算数、中学校国語は、全国、県と同等若しくは全国、県より学力上位層にシフトした大きな山を有す正規分布でした。全国、県に比べて学力が安定していた頃の状態です。一般的に、学力上位層に大きな山を有す正規分布は、学力上位層の同質集団で構成されているため、一斉指導の授業が組み立てやすく、指導の効果も出易い傾向があります。好循環になっていた訳です【次頁グラフ(ア)】。

一方、令和元年度の中学校数学・英語は、学力上位層から下位層まで幅広くなだらかな分

布であったり、下位層が厚くなった分布であったりします。全国に比べて県、花巻市の学力が低い状態が続いています。幅広くなだらかな分布や下位層が厚い分布は、習熟度別指導、個別指導等のきめ細かな指導の手立て等を徹底した授業に改善したり、授業以外の時間で補充指導を継続したりしない限りなかなか効果が得られず、かといって手立てを講じないまま放置すると一層学力低下が進行します【次図グラフ(イ)➡(ウ)➡(エ)】。県、花巻市が長年にわたり中学校数学・英語の学力向上に苦しみ続けている所以です。これが学校毎の分布となるとさらに複雑多種多様で、学力上位層と下位層に二極化したり、学力上位層から下位層まで断続的に分断したり、一層一斉指導の授業が難しく、指導効果も得られにくい状態になっています【下図グラフ(オ)(カ)(キ)】。悪循環の連鎖です。



○ 令和元年度以降の正答数別児童生徒の分布から

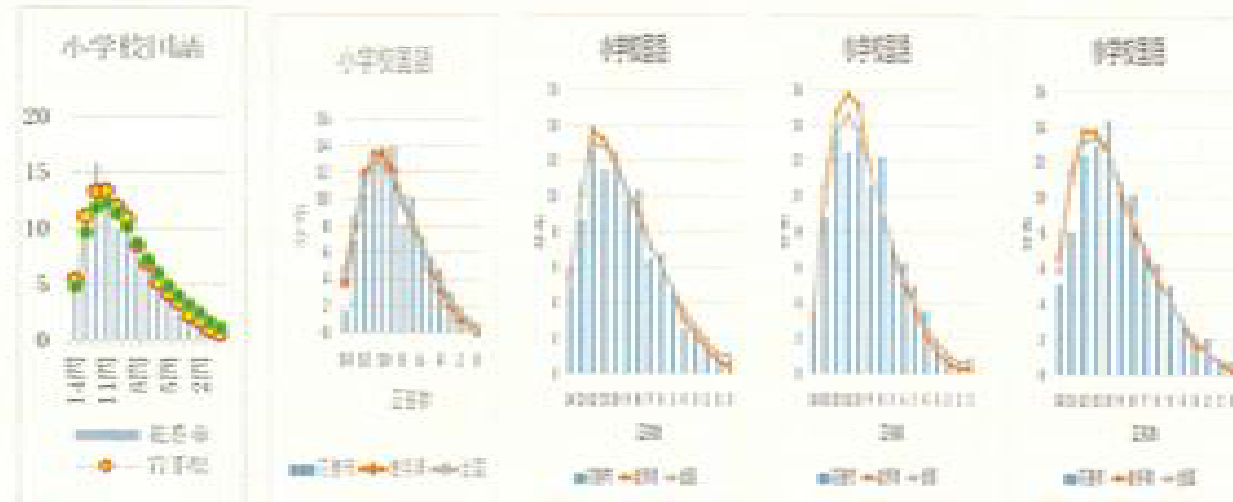
ところが、平成28年度に小学校に入学して令和3年度に小6となった以降の学年は、かつて学力が安定していた小学校国語・算数、中学校国語でも年々幅広くなだらかな分布に向かい始め、中学校数学・英語にあっては徐々に上位層の山が小さくなり下位層の山が分厚くなっています【上図グラフ(イ)(ウ)(エ)】。このことは、次ページの「教科毎の正答数別児童生徒の分布」が年度により異なる集団のものであることを踏まえると、いずれの学年でも年を追うごとに指導が難しく、効果が出にくい方向に向かい続け、先が見えない由々しき状況にあります。とりわけ近年の花巻市は厳しさが増しています。

本資料で提案する「ゴールから組み立て基礎基本を定着し学習意欲を高める授業改善」は、学力上位層から下位層まで幅広くなだらかな分布であったり、学力上位層のくぼみと下位層の膨らみが進行した二極化傾向の分布であったり、学力上位層から下位層まで断続的に分断した分布であったり、国、県の動向を踏まえつつも近年の花巻市の児童生徒の学力実態を考慮して、少しでも効果を上げようと試みている独自の学習指導過程です。各学校が受け持つ様々な学年集団の実態に応じて、指導方法の一つとしてより多くの学校に活用していただくよう研修会等を行っているところです。

全国学調教科毎正答数別児童数の分布【小学校】

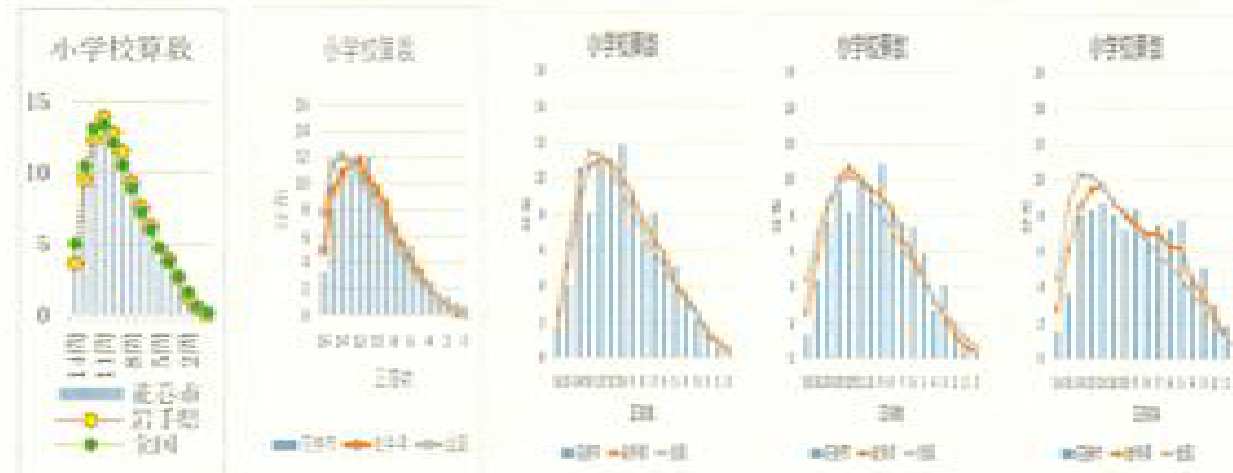
● 国語

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査



● 算数

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査



● 理科

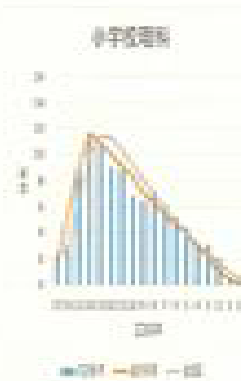
令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査

未実施

未実施

未実施

未実施



花巻市では、どの教科も、年々、学力上位の児童数が減り、学力下位の児童数が増え続けています。特に、算数で目立ちますが、近年は得意だった国語でも同じような状況が見られます。

このことは、全国や県に比べて、花巻市の児童一人一人の学力が伸びていない、年々、落ちてきているということです。大変大きな問題です。

全国学調教科毎正答数別生徒数の分布【中学校】

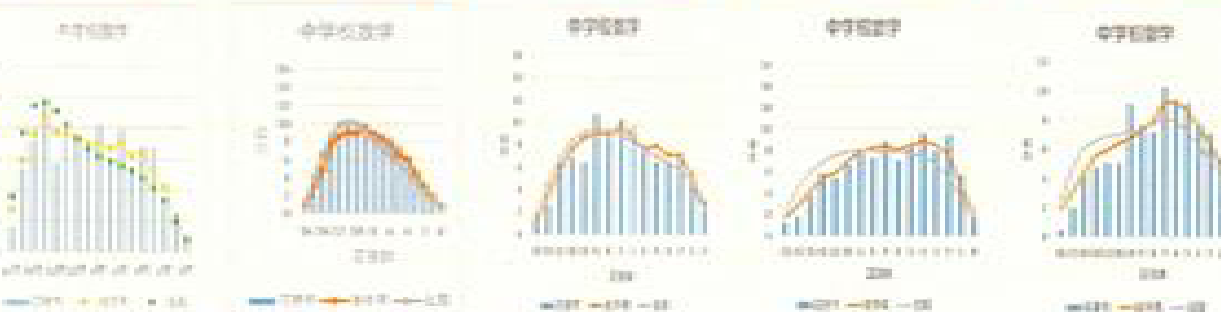
● 国語

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査



● 数学

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査



● 理科

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査

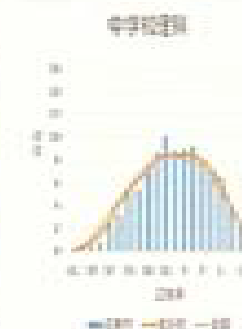
未実施

未実施

未実施

未実施

花巻市では、どの教科も、年々、学力上位の生徒数が減り、学力下位の生徒数が増え続けています。特に、数学、英語は以前から課題でしたが、今は得意だった国語でも同じような状況が見られます。



このことは、全国や県に比べて、花巻市の生徒一人一人の学力が伸びていない、年々、落ちてきているということです。大変大きな問題です。

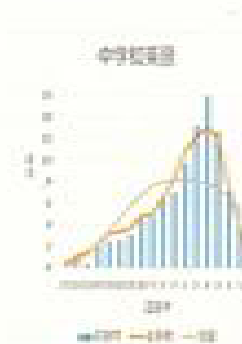
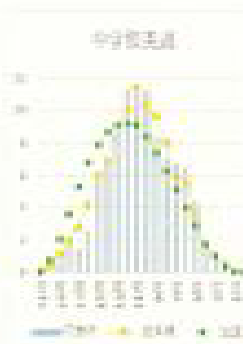
● 英語

令和元年度調査 令和3年度調査 令和4年度調査 令和5年度調査 令和6年度調査

未実施

未実施

未実施



>>> 4年後 >>>

2 花巻市の課題解決の方策

花巻市でも年々少子化が進行していますが、それでも一つの学年集団の児童生徒数は700人前後です。この大人数の学力分布の山が見た目で判別できるほど動くということは相当の変化で、もはや一部の学校・学年・学級、限られた児童生徒・教師・授業に起因する問題とは考えにくく、全面に広がる土壌、全体を覆う空気、大げさに言えば子育て、教育の文化の影響と考えなければならない深刻な状態です。

逆に、県、花巻市が長年にわたり中学校数学・英語の学力向上で苦勞していることを考えると、一度陥った負の分布を元の良好な分布に戻すことは至難の業です。相当に思い切った手立てを講じていない限り、上方修正はおろか現状維持さえも困難になるということです。今取り組んでいることが本当に必要なことなのか、成果につながる取組なのか偏ることなく検証し、よくない体質になっていないか、このままの体制でよいのかフラットに見直さなければならない危機的な段階と私は思います。

○ 生徒指導は安定しているか

学校経営や学校運営に「生徒指導の安定」と「教科指導の充実」が重要であることは周知の事実ですが、生徒指導については担当領域でないことから、学校現場にいた時の経験を元に控え目にお話しさせていただきます。

児童生徒や教職員が明るく、楽しく、前向きに学習したり仕事したりしている学校で仕事をすることがあります。取り立てて学力向上の手立てを講じている訳ではないのに、児童生徒の学力は全体的に安定し、スポーツ・文化活動での児童生徒の活躍も目覚ましい状態の学校です。人を育む文化、よい空気、土壌がある組織と言えます。

《成果を生み出している学校の姿とは》

人間関係が良好で、楽しい雰囲気の中で、協力して成果を生み出そうと努力する空気
児童生徒、保護者、地域の信頼が厚く、効率的・効果的に仕事をしている教職員組織
立ち居振る舞いや表情・言動がさわやか、失敗を恐れずチャレンジを続ける児童生徒
そして何より
児童生徒、保護者、地域等の困難事案に、率先垂範、迅速対応できるリーダーの存在

《成果を生み出す学校になるためには》

一人一研、教科等部会を廃止した今 教員研修・校内研究会の在り方～OJTの推進
成果が伴わない今 日常的に結果やゴールを意識する教職員の実践～焦点化と数値化
成果と課題の見極め 指導力向上～それぞれが受け持つ児童生徒の姿として検証発信
そして何より
豊富な経験、多様な理論に裏打ちされた言動で、責任と覚悟があるブレないリーダー

先に記載した悪循環に陥っている学力分布にあると、授業が分からない、ついていけない児童生徒が増えていきます。中には立ち歩いたり関係のない話をしたりして、授業に支障をきたす言動が出てくることもあります。生徒指導が不安定なよくない環境になります。自ら所属する組織の風土はいかがですか。まずは、それぞれが受け持つ領域、集団に対して、「生徒指導の充実」に向けた改善の余地はないのか顧みていただければ幸いです。

○ 教科指導は充実しているか

本来は、悪循環の学力分布にならないように対策しなければならない訳ですが、花巻市の現状は

すでに多くの学校の多くの学年で難しい学力分布になっています。かといって、教科担任一人の一斉授業をベースとするスタイルで、毎時間、習熟度別指導、個別指導等の手立てを十分に講じることには限界があり、多忙化で補充指導の時間も限られているのが学校現場の現実です。

そこで、多くの学校の多くの学年の難しい学力分布を改善していく対策を考えるために、授業を「不易」「流行」の二つに大別し、改善に向けた具体的な方法を考えていきます。「不易」とは、授業を充実するために昔から大切にされてきた次の12項目です。近年は人を増やすことに目が行きがちですが、増員には多額の費用がかかるので限度があります。改めて、教科担任一人で行う一斉授業を充実するために、自らの授業の「不易」を見直し、改善すべき点があれば自ら修正していただくようお願いします。

《授業を充実するための視点「不易」》

- ・授業開始のあいさつ 真剣さ、静けさ、集中力、学びの意欲
- ・前時までの想起 今日の新たな学びに必要な最低限の無駄のない内容
- ・学習用具 子どもの集中力、学習スペースの確保
- ・板書 子どもにとっての45分間の思考過程が1ペーパーにまとめられたイメージ
- ・学習課題 子どもの思考を促し活性化する表現
- ・学習方法 課題解決に沿っていること
- ・発問 明確に、簡潔に、平明に、子どもの心にしみこむように
教師のやさしさ、温かさ、愛情、人間性が表れるように
- ・一人学び 学習方法に沿った自力解決、個別指導の機会
- ・学び合い 教師が整理し、共通性や客観性を見出し、学習の要を定着
- ・発言・発表 指名・挙手・フリー、子どもの学習意欲や成就感を意識
- ・家庭学習 一人で行き届けること（下位の子はできそうないことに意欲が湧かない）、
もっとできる子にはチャレンジ問題（上位の子もさらに伸ばす意識）
- ・次時の予告 知的好奇心や興味・関心を高める

《授業を充実するための視点「流行」》

- ・個別最適な学び 子どもに委ねる時間を作り、つまづいている子には個別指導で基礎
基本の定着、できている子には発展問題で成就感
- ・協働的な学び 個別最適な学びと往還、主体的・対話的で深い学び、単なる発表会で
終わらないよう留意
- ・見取り・評価 指導と評価の一体化、演習、確認テスト(評価問題の活用)、家庭学習
に連動
- ・目指すサイクル 単元テスト結果の向上➡子どもの学習意欲➡保護者の信頼

この「授業を充実するための視点「流行」」は本資料のメインテーマであり、「**ゴールから組み立て基礎基本を定着し学習意欲を高める授業改善**」として次ページ以降で詳しく掲載します。

併せて、「**ゴールから組み立て基礎基本を定着し学習意欲を高める授業改善**」を組織的に推進するための事例も添えました。経験も特長も受け持つ集団や業務も異なる教職員一人一人を成長させていくためには、「自己課題解決シート」等の個別の取組と連動させることも有効です。

そして、これらの**課題解決の取組を推進する場合には、日常域に教職員一人一人が細目に学級経営、授業改善、家庭連携等で「OODA(ウーダ)ループを意識し、「1on1」のフラットな話し合いを通して教職員個々の学級力、授業力、家庭力を育むことが重要**です。

ゴールから組み立て基礎基本を定着し学習意欲を高める授業改善

「基礎基本を定着する授業」「多様な考えを育む授業」「主体的に学ぶ授業」等、先生方はいろいろ工夫して日常の授業実践をしていることと思います。しかし近年、花巻の子どもの学力は大きく低下し続けており、変容する子どもの実情に応じた授業の進め方に課題意識を持つ教員も多く見受けられます。そこで今回は、花巻の子どもの深刻な学力低下に歯止めをかけることを目的に、実践が浅く多忙な日常でも取り組みそうな「基礎基本を定着する授業」の進め方をできるだけ単純化して考えることにしました。ここで取り上げる学習指導過程を唯一無二と考え強制するものではありませんが、「基礎基本を定着する授業」に課題を感じている先生方には是非参考にしてほしいと思います。

1「指導と評価を一体化」して「基礎基本を定着する授業」に改善

初めに、ゴール（単元テスト等の評価）から授業（学習活動の指導）をシンプルに考えてみましょう。

子どもはテストの結果が良いと満足し、先生の評価で次はもっと頑張ろうと思います。親も喜び、先生に感謝します。児童生徒、保護者、教師に信頼関係が生まれる良いサイクルです。そこで、教師は児童生徒がテストで良い結果を出せる授業にすることが大切になります。

子どもは一度の学びで分かる、できるようになることは稀で、大方は同じことや似たようなことを何度も繰り返すうちに分かる、できるようになるものです。授業、家庭学習、単元テストの問題や似たような問題を幾度も解くうちに理解が深まり、やがて基礎基本として定着します。

これらのことから、

- ① すべての児童生徒が単元テスト等に出題されている問題や類似問題を解けるようになり、分かった、できたことを確認して終わる授業展開をして、
- ② 授業で習った問題を自力で解けるようになったことを自分で確かめる家庭学習につなげ、
- ③ 時間をおいてこれらが総合的に出題されている単元テストで良い結果を得る体験を積ませる。
- ④ ①～③がスパイラルに連動する指導計画を作成して実践を継続すると、
- ⑤ やがて児童生徒は学習成果を実感できるようになり、前向きに意欲的に学習に取り組むようになります。

「指導と評価を一体化」して「基礎基本を定着する授業」に改善するためには、具体的にはこのような取組が効果的なのではないのでしょうか。

2「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の具現化

次に、日常の授業でよく見られる課題について、近年の動向を踏まえつつ改善策を考えてみましょう。

「子どもの学力差が大きく、どのように授業を進めればよいのか悩んでいる」と先生方からよく伺います。また、授業参観させていただくと、最終的にすべての児童生徒が分かったのか、できたのか見取ることができない授業にも出くわします。さらに、教師が一方的に話し続けている授業も少なからず見かけます。

初めから終わりまで教師が主導権を握る授業ばかりしては、個人差に応じた指導ができる時間は生み出せません。また、授業の中に子どもが自力でじっくり問題を解く場面を作らない限り、授業者も参観者も個々の子どもが分かったのか、できるようになったのか看取することはできません。さらに、教師が一方的に話す話し続ける授業に児童生徒の主体的な学びは期待できませんし、主体的な学

びが学習成果に直結するというデータにそぐわない指導法です。

これらのことから、

- ① 教師は児童生徒の考えや発言を取り上げ生かして授業を組み立てる指導技術を磨き、
- ② 児童生徒を手放しても児童生徒個々に若しくはグループ毎に学びが続く仕組みをつくり、
- ③ その時間を使って、教師（Ｔ２がいる場合はさらに効果的）は個人差に対処したり、理解に至っている児童生徒はさらに難しい問題にチャレンジしながら一人学びや学び合いを続けたりし、
- ④ 授業終盤では、すべての児童生徒が分かった、できたに辿り着いたことを確実に看取って、
- ⑤ 児童生徒が家庭で行う自主的自立的学習につなげます。

近年強調される「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の具現化は、このようにして行うのではないのでしょうか。

3「学習意欲」と「居心地の良い人的環境」「分かった、できたで終わる授業」

さらに、子どもの学習意欲を持続する手立てについても考えてみましょう。

教師は児童生徒、保護者、同僚や上司との関係が良いと心が軽くなるように、子どもも親、先生、友人や先輩との関係が良いと気持ちが安定してやるべきことに集中できます。学級、学年、学校経営においては、日頃から子ども一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、子ども一人ひとりが居心地の良い人的環境を整える生徒指導が基盤と心得なければなりません。

生活科に代表される経験単元に対し、大部分の教科の教材単元は内容ありきで進行します。教師主導に陥りやすく子どもの学習意欲を削いでしまう危険に留意しなければなりません。児童生徒の学習意欲は自らの力で分かった、できたときに最高潮に達すると考えられることから、我々が大切にしなければならないことは、繰り返しになりますが、すべての子どもに分かった、できたを実感させる授業を提供することです。

これらのことから、１時間１時間の授業では、次のことを確認してほしいと思います。

- | | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 【はじめ】 | ・授業では分からない、できない児童生徒を主役に位置付けているか | □ |
| | ・児童生徒は何が分かり、できるようになればよいのかつかめているか | □ |
| | ・一斉指導、学び合いの場が、理解力に劣る子を巻き込んで展開されているか | □ |
| 【なか】 | ・一人学びの場が確保され、一人学びの時間は十分にとられているか | □ |
| | ・そこでつまづいている子への支援は、偏りなく行き届いているか | □ |
| | ・分かった、できた子は次の問題にチャレンジし、互いに高め合っているか | □ |
| 【おわり】 | ・確かめ問題が適切に設定され、確かめの時間が十分に確保されているか | □ |
| | ・それを使ってすべての児童生徒の分かった、できたを確認しているか | □ |
| | ・児童生徒の家庭学習をつくり、学習習慣を育む手立てはとられているか | □ |

児童生徒の「学習意欲」は、「居心地の良い人的環境」を基盤とする「分かった、できたで終わる授業」から生まれると考えられます。

皆さんは日頃同僚や上司に大切にされていると感じていますか。機嫌が良い人とそうでない人とどちらの人が好きですか。学校が楽しいと思い過ごしていますか。これらの感じ方はきっと子どもも同じです。教師が行きたい学校は、児童生徒も行きたい学校に違いありません。そしてその土台は、誰もが人目を気にせず生活できる生徒指導が安定した環境で、分かった、できた経験が乏しい子どもが分かった、できたと笑顔になり、分かった、できた経験が豊富な子どもは仲間と高め合いながら難しいことにチャレンジして輝く、そんな授業が日常的に行われている学校のように思います。

【補足①】 先生方が学習指導要領の本質を理解して授業改善の手立てに具現化することにより、児童生徒は基礎・基本を定着して学習への意欲を高めるようになります。

学力向上担当

1 「主体的な学び」で「深い学び」へ

学習指導要領に示される「主体的な学び」とは、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び」です。子どもに「主体的に取り組みなさい」と言ってそうなのであれば事は簡単ですが、そうならないから先生の手立て「個別最適な学び」「協働的な学び」を機能させることが重要です。

具体的にどうすれば子どもは主体的に学ぶようになるのでしょうか。「主体的な学び」は「自己の学習の振り返り」が起点です。子どもは「振り返り」の意義を理解しているのでしょうか。学習したことは「スッカリ」「スッカリとモヤモヤ混じり」「モヤモヤ」3つのどれか自己評価できているのでしょうか。学習内容の理解状況と関連付けて自分の心の内を素直に表現できることは自分にとってよいこと（個別最適な学び）、学級の仲間が「スッカリ」できるように自分の力を生かすことは人として立派なこと（協働的な学び）を子どもたちが実感すると、「主体的な学び」に向かって動き始めます。

この動きを作るためには、「モヤモヤ」を皆に話せる心理的安全性の高い教室の雰囲気を作ること（学級経営や生徒指導の充実）、学習したことの肝を確実に見取る手立てを授業に組み込むこと（授業改善の視点）、これら2つが教師の役割として大切です。教師が児童生徒個々の「モヤモヤ」を大切に学習指導要領に示される「主体的な学び」に向かうスイッチが入ります。学習したことの肝を確実に見取る手立てに「自己選択」の要素を盛り込むことも効果的です。複数ある問題の中からどの問題で確かめ学習をするか自己決定することは「振り返り」➡「主体的な学び」へ直結します。

2 「対話的な学び」で「深い学び」へ

学習指導要領に示される「対話的な学び」とは、「子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び」です。「対話的な学び」も「個別最適な学び」「協働的な学び」と関係します。「分かる、できる」「分かる、できると分からない、できない半々」「分からない、できない」の「自己の学習の振り返り」を起点に、誰かの「分からない、できない」を解決するために自分の「分かる、できる」を活かせるよう「協働的な学び」を仕組みます。「対話的な学び」「協働的な学び」で「他者の考えを手掛かり」にして再び「主体的な学び」「個別最適な学び」にサイクルすることが重要です。

学習指導要領に示される「深い学び」とは、「各教科等で習得した概念や考え方を活用した『見方・考え方』を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう学び」です。各教科等の「見方・考え方」とは「社会につながる教科の内容」、つまり「人生に役立つ学習内容」と置き換えることができます。これが学習したことの肝であり、「深い学び」は「人生に役立つ学習内容」を中核に展開することが大切です。

グループ学習が単なるミニ発表会になっていては「深い学び」に辿り着きません。「主体的な学び」「個別最適な学び」⇔「対話的な学び」「協働的な学び」で「インプット」「アウトプット」を往還することで「深い学び」が実現します。例えば、算数・数学の「見方・考え方」で、ある具体的な事例から「主体的な学び」「対話的な学び」を通して「比べるときは単位をそろえなければならない」という肝を見いだし、この肝を別の具体的事例に適用して成立することを確認、最終的には日常場面の具体的事象に応用する力として働かせることができるようにしていくというイメージです。

【補足②】 児童生徒は教師が言う通りにやらなくても、教師がやる通りにはする。教師が授業で使う言葉や表現が児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」に直結します。

学力向上担当

児童生徒は、教師の言う通りにはしないことは多々ありますが、教師がやる通りにはするようになっていくものです。「やってみせ 言って聞かせて させてみせ ほめてやらねば 人は動かじ」山本五十六氏が人を育てるトップのあるべき姿を表した名言です。教師は教室のリーダーであり、学級全体に大きな影響力をもちます。「言って聞かせて させ」ようとするリーダーはあまねくおりますが、「やってみせ」るリーダーは案外希少です。強調したいことは、「やってみせ」られる教師を目指してほしいということです。「言うは易く行うは難し」、実はリーダーへの信頼や敬意はここから生まれます。子どもは教師を見ていないようで意外に注意深く見ています。日常的によい模範に触れている子どもは、黙っていてもやがて同じようにやってみようようになります。

授業で児童生徒に向けて使っている言葉や表現を想起してほしいと思います。児童生徒に「主体的にならなさい」「対話的に進めなさい」「深い学びをきなさい」と檄を飛ばしたところで、そうなるはずはありません。児童生徒が学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、教室のリーダーである教師が普段の授業で「主体的・対話的で深い学び」に直結する言葉や表現を多用し、それが自然に児童生徒にも波及していくことが望ましい教育環境です。

具体的にお話しします。児童の「モヤモヤ」を「スッカリ」へ向かわせ、生徒の「分からない、できない」を「分かった、できた」へ誘う学習指導過程で、次のような言葉、表現を使っていますか。

（1）相手の考えを受け止める言葉や表現の具体例

「なるほど！よく気付いたね」「その考え方はすごくいい」（承認、納得）
「そういう考え方もあるんだ」「その考え方の方がいいかもね」（補足、変化）
「やっぱりそうなんだ！」「そこが大事なんだ！」（確認、強調・協調）

（2）相手に返して対話を活性化する場合の具体例

「ちょっと待てよ!?!」「ここはどう考えればいい?」（疑問、転換）
「私はこう思うけど、あなたは どう思う?」「この違いを どう説明する?」（意見、質問）
「もうちょっと聞かせてほしい!?!」「そこもう少し詳しく知りたい!」（追求、深堀）

（3）全体で考えを深め発展させる言葉や表現の具体例

「そういえばこういうことがあったけど?」「あなたの考えを聞きたい?」（想起、催促）
「あっ、分かった!」「あなたの考えはこういうことか!」（発見、確認）
「あなたの考えを生かすと!?!」「ここもう少し考えてみよう」（推論、発展）

あまり意識したことはないかもしれませんが、日常の授業で「主体的・対話的で深い学び」につながる言葉や表現を何気なく使っている先生方もいらっしゃると思います。私は授業研や個別研等でたくさんの授業を参観させていただいています。「主体的・対話的で深い学び」を実現している授業とそうではない授業を比較すると、先生の「主体的・対話的で深い学び」につながる言葉や表現に大きな差があるように思います。とすれば、「主体的・対話的で深い学び」につながる言葉や表現を磨けば、誰もが「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善ができるはずで、大切なことをもう一つ付け加えると、言葉、表現と同様に、明るくさわやか、前向きで元気、教育愛と行動力、教師の表情や姿勢も教室の空気を大きく左右します。子どもの前に立っている自らの姿を思い浮かべ意識してほしいと思います。よいリーダーに恵まれると組織が活性化して成果が上がるように、よい教師に恵まれると学級の児童生徒は能力を発揮してさらに力を付けていきます。

「ゴールから組み立て基礎基本を定着し学習意欲を高める授業改善」の組織的な推進事例

1 令和7年度の方針

学級・学年を単位に前年度の課題を焦点化した後、生活アンケートや児童生徒質問紙調査の調査項目、各種学力調査の教科正答率や設問別正答率等を活用して、最優先で取り組むべき課題に係る数値化目標を設定します。課題解決に向けて年間を見通して段階的に取り組むべき具体的方策を共有して、年度末には最優先で取り組んだ課題に係る数値化目標の達成状況を取りまとめて総合評価します。経験値も特長も異なる教職員一人一人を個々に成長させるために「自己課題解決シート」等を作成して取り組むことも有効です。

大切にしたいことは、学校経営・運営が学級・学年・教科等の業務に直結するシステムを構築し、ひいては学校経営・運営が学級担任・教科担当等全職員の業務につながっている仕組みを作ることです。こうすれば、全職員が学校経営・運営への参画意識と自己有用感を高め、結果として学校としての教育効果につながります。各学校の学力向上アクションプランは、各学校の学力・意識調査の分析、児童生徒の実態、組織等の実情を踏まえて、きめ細かな手立てを講じることにより機能します。

2 令和7年度の実践

「花巻市学力向上アクションプラン」の「学級・学年経営の充実」「学習者主体の授業改善」「家庭学習の抜本的改善」3つの柱から学級・学年で改善すべき課題を設定して具体的な改善の実践を行います。

項目・学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
選択項目	略	「学級・学年経営の充実」	略	「学習者主体の授業改善」	略	「家庭学習の抜本的改善」	略
R6課題		R6小1「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答75%		R6小3算数CRT平均正答率の全国比85		R6小5「平日1時間以上の家庭学習」55%	
R7目標		R7小2「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答85%		R7小4算数CRT平均正答率の全国比100		R7小6「平日1時間以上の家庭学習」が80%	
目標達成のためのR7具体的な実践		① 子ども一人一人が自己肯定感を持ち、節度・規律ある生活と他者を考えた言動ができる集団づくりを意識 ② 学級担任として、児童の言動が建設的になるように関わったり、児童の人間関係の溝を埋めたりする実践 ③ 個のよさや集団の成長を当たり前と思わず、個や集団の変化や努力を日常的に積極的に細やかに評価し、個や家庭に発信		① 1年間のゴールとして、児童が学ぼうとする力、学ぶ力、学んだ力を身に付けられるように授業改善 ② 教師主導の場と時間を精選し、学習の主体が児童にある場と時間を生み出し、個人差を埋め個を伸ばさせる実践 ③ 基礎基本の評価問題を1単位時間の授業のまとめに必ず位置付け、児童が毎時間自己の学習成果を実感する授業を継続		① 児童一人一人がそれぞれに宿題の有無にかかわらず、授業で学んだことを土台に自律的、自主的、建設的に学びに向かっている状況に到達する手立てを意識 ② 児童を活かす授業の指導技術を磨くことと同等に、他者を元気にする、子どもや親の気持ちを押し測り前向きにする関わり方を実践 ③ 機会をとらえて本人や保護者に個々の児童のよさや頑張っていることを具体的に知らせ、認め、励まして親子の気持ちを前向きにする関わり方を継続	
R7目標達成状況		R7小2「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答95%		R7小4算数CRT平均正答率の全国比110		R7小6「平日1時間以上の家庭学習」が100%	
R7総合評価		市平均を10ポイント上回り目標達成。児童個々の成長を保護者に積極的に発信したことにより、保護者との信頼感が深まり、児童の前向きな姿勢が大きく成長		全国比で10ポイント上回り目標達成。授業の後半に個別最適な学びを位置付けて個別指導を行ったこと、毎時間の授業終末に1問テストを実施して定着を見取る手立てが奏功		国語と算数は必ず復習する児童が100%、算数は必ず予習する児童も80%と大幅に増加し、保護者の学校教育に対する満足度が飛躍的に向上	

3 令和7年度の総括

学級・学年を単位にすべての学級・学年でスモールステップの具体的な実践を継続した結果、いずれの学級・学年においても「目標達成することができた」「目標達成には至らなかったが、前年度に比べて目標に近づくことができた」等、学校全体として成果を確認できました。……

令和7年度に向けた学力向上に係る方向と具体の提案①「意識変容から授業改善」

学校教育課 学力向上担当

R 6 小 5 は R 5 小 4 C R T、R 4 小 3 C R T いずれにおいても過去最低を更新し続け、県学調において過去最低だった R 6 小 6 よりさらに厳しい結果が予測されていました。そこで、令和 6 年度は市教委として小 5 児童対象講話、保護者対象講演、教員対象授業改善講義を原則悉皆として力を入れました。その結果、取組の効果が数字に表れる小学校が増え、国語・算数とも 1 年間の成長としては過去最大幅の伸びとなりました。今後は、この望ましい変容を偶然とせず、取組を続け広げる実践が求められます。そこで、他の学年を含めて取組の効果が数字に表れている学校の中から、特に早い段階から多用な取組を実施して改善に努めた A 小学校の事例を紹介します。実は、R 5 までの A 小学校は学力向上に苦しんでいましたが、C 中学校では中学校段階の学力向上対策を講じ、市内でも顕著な成果を収めている中学校の一つです。もし、A 小学校の学力が安定することになれば、A 小学校・C 中学校区の子どもたちはさらに大きく成長することになります。A 小学校は令和 5 年度から令和 6 年度にかけて次のような取組を行い、子育て、教育の充実にチャレンジしました。そして今、目指してきたことが成就しつつあります。

A 小学校の取組事例

A 小学校が市教委と連携して取り組んできたこと

- 【令和 5 年度】12/26 先生方を対象に授業改善研修会を実施していただきました
 - ・ 効果を高める校内研究の進め方
 - ・ 結果につながる授業改善の方策
- 【令和 5 年度】2/8 学校運営協議会の皆様を対象に説明会を実施していただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の実態
 - ・ 課題解決のために取り組んでいること、地域の皆様をお願いしたいこと
- 【令和 5 年度】2/15 小 5 児童・保護者の皆様を対象に講話させていただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の実態
 - ・ 学力が高まる学び方と生活の仕方
- 6/20 すべての保護者の皆様を対象に講演会を実施していただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の実態
 - ・ 課題解決のため取り組んでいること、保護者の皆様をお願いしたいこと
- 11/14 PTA 役員の皆様を対象にその後の状況を報告させていただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の現状 A 小学校のその後
 - ・ 成果をより確かなものにしていくために、これからお願いしたいこと
- 11/28 小 4 児童・保護者の皆様を対象に講話させていただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の実態
 - ・ 学力が高まる学び方と生活の仕方
- 12/4 小 4 児童の保護者の皆様を対象にディスカッションさせていただきました
 - ・ 湯口小学校 4 年生の学力の実態
 - ・ 親として我が子とどう関わるか？

A 小学校として力を入れて取り組んできたこと

市教委と連携して取組を進め、意識変容から授業改善、成果が数字にも表れています。

R 6 C R T	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6
A 小 国語	1 1 1	1 0 3	1 0 7	1 1 7	1 0 5	1 0 7
A 小 算数	1 1 7	1 0 5	1 1 9	1 2 4	1 1 1	1 0 9

↑

R 5 C R T	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6
A 小 国語	9 9	9 7	8 5	9 6	9 8	9 9
A 小 算数	9 1	8 7	9 2	9 3	9 6	9 2

教務主任（4 年担任）の週予定の記載から（抜粋）

- 指導の前に先生自身が単元テストを見ることを大事にしていましょう。1 時間の学習をただ流すのではなく、ここで身に付けたい力は何かを意識して指導し、適用問題でそれが身に付いたか確認し、児童自身の言葉で振り返るところまでを 45 分ととらえて学習を積み重ねましょう。
- 単元テストで苦手と思われる部分の補充も意図的計画的にお願いします。一度解説して終わりではなく、必ずできるようになったことを「確かめる」まで何度も取り組む等、確かな力を身に付ける取組を各学級でお願いします。
- 4 年生は課題の多い学年です。昼間は親子で講演を聞き、夜は保護者とディスカッションします。担任だけでは成し遂げること難しいので、家庭の力をお借りしながら充実に努めていきます。

令和7年度に向けた学力向上に係る方向と具体の提案②「校内研から実践充実」

学校教育課 学力向上担当

R 6 小 5 は R 5 小 4 C R T、R 4 小 3 C R T いずれにおいても過去最低を更新し続け、県学調において過去最低だった R 6 小 6 よりさらに厳しい結果が予測されていました。そこで、令和 6 年度は市教委として小 5 児童対象講話、保護者対象講演、教員対象授業改善講義を原則悉皆として力を入れました。その結果、取組の効果が数字に表れる小学校が増え、国語・算数とも 1 年間の成長としては過去最大幅の伸びとなりました。今後は、この望ましい変容を偶然とせず、取組を続け広げる実践が求められます。そこで、他の学年を含めて取組の効果が数字に表れている学校の中から、特に早い段階から多用な取組を実施して改善に努めた B 小学校の事例を紹介します。B 小学校には、改善に向けた取組の継続と広がりをお願いとして、令和 6 年 1 1 月 2 5 日に実施した研究主任研修会で教務主任と研究主任から実践発表していただきました。

◆ B 小学校の取組事例

B 小学校が市教委と連携して取り組んできたこと

- 【令和 5 年度まで】児童講話・教員個別研修等を精力的に実施していただきました
- 4/22 PTA 役員の皆様を対象に説明会を実施していただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の現状 その後
 - ・ 成果をより確かなものにしていくために、これからお願いしたいこと
- 4/25 先生方を対象に授業改善研修会を実施していただきました
 - ・ 効果を高める校内研究の進め方
 - ・ 結果につながる授業改善の方策
- 4/27 すべての保護者の皆様を対象に講演会を実施していただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の実態
 - ・ 課題解決のため取り組んでいること・保護者の皆様にお願いしたいこと
- 1/20 先生方を対象に今後の手立てについて全校研究会を実施していただきました
 - ・ 結果につながる授業改善の方策
 - ・ 県学調を全国学調に生かす具体的な手立て
- 3/14 小 5 児童の皆様を対象に講話させていただきました
 - ・ 花巻の子どもたちの学力・意識の実態
 - ・ 学力が高まる学び方と生活の仕方

B 小学校として力を入れて取り組んできたこと

市教委と連携して取組を進め、校内研から実践充実、成果が数字にも表れています。

R 6 C R T	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6
B 小 国語	1 0 2	1 0 6	1 1 0	1 0 2	1 1 1	1 0 0
B 小 算数	1 0 1	1 0 3	1 0 9	9 7	1 1 3	1 0 1

↑

R 5 C R T	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6
B 小 国語	9 6	1 0 4	1 0 3	1 0 2	9 6	9 9
B 小 算数	9 3	9 8	1 0 0	1 0 3	9 8	1 0 3

教務主任と研究主任が連携して全校を牽引

- 学校が年間を通して最も力を入れて取り組んでいることは、特別支援教育、教育相談、Q U テスト活用等、授業の基盤となる集団づくりについての校内研究と日常実践です。
- この土台に立って、教職員一人一人は自らの課題を解決するための 1 年間の取組を自己課題解決シートとして計画し、全職員が自らの実践を通して成果・課題を明らかにする校内研究に取り組みました。
- 重視したことは、生徒指導（学級づくり）と教科指導の両輪からのアプローチ、各種学力調査結果等から明らかにした児童の実態をベースにした取組、単元レベルで指導と評価の一体化を図る指導の推進です。
- 教職員の指導が児童の学力と意欲に、児童の成長が保護者の信頼と協力に、保護者の支えが教職員のやる気と次の手立てにつながる好循環が確立しつつあります。